

1. 議事の主な内容

(1)次期「しまねっ子すくすくプラン（県こども計画）」パブリックコメント（案）について

資料1 資料2 参考資料

(2)今後のスケジュールについて 資料3

2. 開会あいさつ（次長）

3. 会議の成立

4. 肥後会長あいさつ

5. 議事概要

≪議事（1）関係≫ 次期すくすくプラン素案に対する委員意見と対応状況 資料1

○会長

- ・3章24ページが前回から大きく変わっているところ。順番も入れ替えているので、4章の説明を聞いてから再度皆さんの意見を伺うこととする。（会長）

≪議事（1）関係≫ 次期すくすくプラン パブリックコメント（案） 資料2

○第4章 基本理念Ⅰ（意見なし）

○第4章 基本理念Ⅱ

○会長

- ・プランの方向性が漠然と書いてあり、具体的に何をするかわからないので、意見が言いにくいかもしれない。事務局としては予算の裏付けがないと具体策は言いにくいようである。参考資料として来年度予算の資料を出してもらっているので、そちらも参考にしてほしい。

○委員

- ・「重点推進事項」を初めて設けたとのことだったが、計画の構造として、基本施策を進めることによって重点推進事項に結びつくというイメージか？
- ・例えば37ページは重点推進事項1につき基本施策が1つであり、重点推進事項とは何かが分かりにくい。

→方向性を重点推進事項に変更した。

こども施策の中で重点的に進めるものが重点推進事項。それを実現するのが基本施策。数字の施策が一番小さな単位。数字の施策が基本施策に繋がり、それが重点推進事項に繋がる。（事務局）

○会長

- ・基本理念Ⅰはよいが、基本理念Ⅱについては、何を重点でやるかではなく、発達の段階に応じての分類になっている。基本理念Ⅲはイコールになっている。たしかに、体系わけがきちんとできているか疑問なところはある。

→基本理念Ⅱは「ライフステージに応じた」というテーマなので、ⅠとⅢとは重点推

進事項の意味合いが異なっているように感じるかもしれない。

○委員

- ・「重点」ということばにひっぱられる。パブリックコメントで何か意見が出たら考えていただけたら。

○委員

- ・先程の意見とかぶるかもしれないが、全体的な構造として、文章を読まないと体系的にわかりづらい。概要版とどうリンクして考えればいいのか。以前の会議で配られた、カラー刷りのA3サイズの表はパブコメに載せるのか。全体像がわかりづらいという印象を持っている。伝え方や説明の仕方等はどのように考えているか。

→以前の会議では、こども大綱を勘案して作ったことにより、「ライフステージを通して」「ライフステージごとに分かれた」「当事者への支援」の3つに分けた資料で示していた。こどもの権利の尊重は「すべてを通じて」としていた。保育や小学校というテーマごとにまとめていたものを、年代ごとにわけた視点で組み立てた。ステージごとの支援というかたちで作り上げているので、施策としてとらえにくいところがある。

○会長

- ・いっぱい書きすぎてるためわかりづらい。一番わかるのは目次。次に25ページがわかりやすい。
- ・ダイジェスト版の7～9ページはわかりにくい。活字のポイントについて、上げるところ、落とすところを考えてもらえたら。ダイジェスト版では、1(1)①～～と施策名をすべて書くと長い。「県民意識の醸成・〇〇〇」など、要約していくことも必要かも。頭出しの項目を短くコンパクトに。ずいぶん整理された印象になると思う。

○委員

- ・ダイジェスト版はパブリックコメントで使うというイメージか。プランには載せないのか。
- パブリックコメントの際のもの。本体には入れることは考えていない。

○委員

- ・ダイジェスト版も本文に入れては。そうしないと本文を読むのにハードルが高い。ダイジェスト版がせつかくわかりやすいのにもったいない。
- 計画ができるときには計画のダイジェスト版など、もう少しコンパクト・わかりやすいものについても検討したい。

○委員

- ・あくまで提案だが、もっと簡単な概要版A3 1枚のものもあるともっとわかりやすいと思う。

○会長

- ・わかりやすいと思う。完成版を作る際はポンチ絵みたいなものを作られると良いと思う。

○第4章 基本理念Ⅲ

○会長

- ・最終版を作成される際の参考だが、基本理念Ⅲについて、現状と課題について神経質に記載した方がよい。例えば88ページは、二番目の○について「発達障がいへの専門的な知識も十分でなく」と言い切るのはどうか考えた方がよいし、知識ばかりあってもよくなく、技術的な関わりも必要。「関わり方～」というような書き方にされてはどうか。
- ・95ページ「里親等への支援ができていない」と言い切ってよいか。
- ・4つめの増えてきているデータが出せるのかを考えてほしい。「支援が必要な状況にあるこどもも多く」という書き方に変えるなど、誤解を招かないように。
- ・ここの書き方は気を付けないと、支援が支援じゃなくなる。

○委員

- ・資料2 92ページ 在留外国人とすると国籍が限られる、93ページのように「ルーツを持つ」とすれば3世も対応できる。

○会長

- ・検討してみたい。

《全体を通しての意見交換》

○委員

- ・こどもの権利擁護が一番最初に書いてあり、こども意見表明が肝だが、予算に反映しづらい部分のため要求概要には載っていないと思っている。予算のかからないやり方ややる方法もある。市もいろいろな取組を県と一緒に、役割分担しながらやっていきたい。

○委員

- ・町でも今回の会議と同じような意見が出ている。保護者への支援について、「こどもは保護者を求めている、こどもが一番大事という方向にしないと、自立した大人にならない」ということを強く委員さんから言われている。今回の計画では丁寧に入れておられると思う。
- ・表記の仕方とかを町でも参考にしたいと思う。県を勘案した計画になるかと思う。
- ・第5章の人員確保の支援も保育士の確保をどうするかを具体的に書くような項目となっている。今の計画より保育士の就職率が下がり、苦慮している。ぜひ一緒に必要な人材を確保したい。

○委員

- ・細かいところも検討いただいてありがたい。
- ・こども家庭庁から、量から質へということが示された。これから保育園は人口減少により保育園の存続を課題としている。それぞれ保育園に保育園のみではなく、多機能化がうたわれている。保育園が地域に必要な施設であり、中核である必要がある。県の方でもさまざまな施策を進めていただき、ついていきやすいような施策をお願いしたい。地域で事業するには、人が必要となるので、保育士や専門職の方の確保支援をお願いしたい。
- ・児童クラブについて、地域の運営委員会長をしている。人材確保が一番困っている。皆さん高齢であり、最初は地域のボランティアから始まっている。運営費があまりにも低すぎて、常勤では対応できないが、パートだけだと成り立っていない。若い方をいれていくには社会保険が必要だが、資金がない。今回計画の中にも児童クラブを入れていただいた。保育園では待機児童がおさまってきたが、児童クラブへ待機児童問題がうつっている。人がいないので受け入れることが難しい。人員確保・資金は市町村だけでは負担が大きいため、現状難しい。県へ支援をお願いする。いろんな方が働いてもらえるよ

うな環境を整えていただきたい。

○会長

- ・ 57 ページに人的な取組が入っているかがわからない。具体的に書き込みにくいかもしれないが、進めていただきたい。
→ 74 ページには人材確保についても触れている。県としても進めていきたい。(事務局)

○委員

- ・ 園が児童クラブをやっている。夏休み・冬休み・春休みは朝からこどもが来る。支援員は 3 時間・半日・早朝から遅くまでなど、様々な勤務体系でこどもたちを指導している。時間が変則的であり、ここで働きたい若い人はいない。なんとか調整がとれるような方法ができたらと思う。
- ・ プランの案を見て、こどもや若者の親を育てる施策があるのかの思った。こどもの元は親。家庭という表現では書いてあるが、漠然としすぎている。こどもがどう育っていくかは親の存在が大きい。日々の忙しさに親が流されてしまう。親を育てる施策が必要。そういった記述があるとありがたい。

○委員

- ・ 丁寧に取り組んでいただきありがたい。大きな課題がいっぱいあるが、43 ページ。学生が施設のホームページを見たときに県の取組のリンクを貼っておくと、県の取組を見てもらえると思う。お役に立てることがあれば、言っていただきたい。
- ・ 専門外だが、インターネットをめぐる社会的な問題が大きい。スマホや AI が身近となってきた。低年齢のうちに知らない間に犯罪に巻き込まれるという心配がある。対策をしっかりとやることが大事。
- ・ 99 ページのインターネットをめぐる対策は、これまでと同じ取組のみで今後 5 年間大丈夫か。具体的になにができるかはわからないが……。こどもたちが写真を撮って加工して楽しんでいるだけなら良いが、知らない間にだれかを傷つけたり、犯罪となる可能性もある。
- ・ 被害にあった方のケアも施策として書いてあるが、そういったことも計画に必要では。事業に盛り込まれているとよいと思う。5 年で急速に変わっていく問題であると思う。

○委員

- ・ 官民が一体となった推進を第 6 章に上げていただいているが、具体的にどこで民が一緒にできるか考えている。民の一員として、一緒にできるプランがこの中に入っているとよい。やりたいので、声をかけてほしい。
- ・ 団体への支援をしている団体もあるので、参考にしてほしい。楽しいことも民間ではできる。
- ・ 字が多いのでもう少し行間があると読みやすい。厚さとのバランスがあるが。
- ・ パブコメにこども世代の意見表明としてなにかアプローチをしてもらえると嬉しい。高校生や中学生に向けて。
→ 今回こどもの方にも意見をいただくということで、何がどう変わっていくのか、関係あるところはどこかということをごどもに示してやっていきたいと思っている。

○委員

- ・ あそぼの会からもこどもへ説明したいと思う。

○委員

- ・ 81 ページ三番目、82 ページ一番目。可能であれば、労働局も同じような施策をしているので、島根労働局や関係機関と連携・協力を付け加えていただけると良い。

- ・労働局でできることは限られているため、連携・協力して進めていくことが大切だと考えている。前向きに取り組みたい。

○会長

- ・全体にかかわることについて、連携が書けたらよいと思う。

○委員

- ・以前の計画と違って3計画が一緒になるなど膨大な計画となっており、全体の構成を考えたのが大変だったと思う。
- ・パブコメについて、素案とダイジェスト版を出されるということだが、ダイジェスト版が重要。今までのプランと何が違うのかアピールして。3ページの「新たな視点」が重要。どこがどう新たになったか、このままでは一般の方はわからない。どうして新たな視点となったのか。アピールした方がよい。多くの県民はわからないと思う。県民向けにアピールすることが必要。こども向けに出すのはとても重要。

○委員

- ・親に対してどのように支援をしていくのか。
- ・プレコンセプションケアとして、思春期から健全な母性・父性、健全な体をつくるためにということをしきりと施策に入れておられる。
- ・障がいがあったり生きにくいこどもたちもあろうかと思う。特定妊婦などいろんなことが課題となっているが、計画に盛り込まれている。5年間で計画とともに事業が遂行されると、こども・親にとって生きやすく生活しやすくなると思う。また、こどもを健やかに育てられる親にお会いできると思う。

○委員

- ・見やすいほうがよいが、書くことはかかかないといけない。96, 97ページのポイントが違う気がする。字体をそろえた方がよいのか、強弱付けた方がよいのか。全体を見直してみしてほしい。余白が多いところもある。
- ・56ページ「づくりが必要です」だけ残るのが見にくい。直してほしいというわけではなく、見やすくなるように全体を見直してほしい。
- ・知識のないものからすると、ダイジェスト版、それをさらに簡単にしたものを見る方がよい。多いと読む気をなくす人もいるかも。ダイジェスト版をみて、見たいところだけ本文をみるという流れになると良いかと思う。

○委員

- ・不安定な生活を送っておられるひとり親が多い。コロナが終わってからいろいろな相談がくる。83～84ページをみると、相談機能の充実や就業相談、養育費の確保等が充実することは、ありがたい。ひとり親は忙しいので、読んでいただけるか不安。SNSやホームページで広報に協力したい。県のホームページで出すか？
→県のホームページにパブリックコメント案を載せる。また、LINE等でもパブリックコメントを実施していることを発信する。(事務局)

○委員

- ・こども向けの概要版があればぜひともみたい。
- ・県内企業でも人手不足が問題となっている。

○委員

- ・社会全体でこどもを育てるという中で、今後の活動として、ひとり親家庭の貧困や障がいのある子を育てておられる家庭は、社会の中で苦しんでおられる存在。フードバンクは取り組んでいるが、実情としては街部のリクエストが大きく、網羅しきれていない。衣食住の食と住をしっかりと支援することが重要。食べられないこどもがいるというのはあってはならない。貧困の連鎖は問題。今、貧困の家庭を救うことで、次世代のこども

たちにとってそういう家庭がないように、少なくなっていく努力をしていきたいし、市町村と協力を進めていきたい。

○委員

- ・こどもが大きくなってきたところのケアもしていくというように変わってきている。最終的には島根が幸せで、ここで住み続けたいというように少子化が改善されるようなプランになるよい。
- ・こどもの意見を聞くのが大事なところ。年代がさまざまな中で、どういった層に聞けばよいのか難しさを感じるが、こどもの声を聞きながら良い島根をつくるということだと思うので、パブコメ、アンケートなど声を聞き続ける体制をシステムとして構築していただきたいと思う。大学で教えていると、毎年学生の傾向もかわってくる。前のことはあてにならない。実態を見ないと対策ができないので、仕組みづくりを県ができるとうい。
- ・全国と比べると合計特殊出生率の高い水準だと思うが、こどもが少なくなると地域の活力が下がる。学生が島根県に就職したいと思うには、インターンシップなど地元企業に就職する道筋がなければならない。女子は、「女子は嫌なことばかりさせられるから田舎は嫌」という声もあり、企業とのギャップもある。やはり働きやすい職場、金銭やソフト的な雰囲気づくりなど、市町村と一体となって地道にやっていくことが必要。お金がかからないところでも動かしていけたらと思う。少子化を食い止めていけたらと思う。自分も大学で学生を県内に就職させられるように頑張ってきたい。

○会長

- ・項目名のタイトルの整理などを最終版に向けてやっていかれたらと思う。
- ・今回、こどもがまんなかにいるというプランに変わった。過去は補助金の話でしかなかった。こどもが読んだときに自分たちの計画と思えるかというところはまだ疑問。ダイジェスト版をこどもに投げてみて、どう思うかを聞いてみてもいいかも。
- ・こどもまんなかをどう実現するか。
- ・一番大事なことはこどもにまず聞いてみること。こどもは聞いているうちに言えるようになる。意見を聴く気持ちを持つことが大事。意見を言えるこどもを育てないといけない。
- ・本日の意見は、パブコメ版への反映は無理なので、3月の会議で反映されると思う。

《議事（２）関係》 今後のスケジュールについて 資料 3

6. 閉会あいさつ（課長）